

■TCK 女王盃 (JpnIII) アラカルト (過去全 22 回の分析)

※第 1 回 (平成 10 年) から第 6 回 (平成 15 年) までは大井ダ 2,000m で実施

※第 7 回 (平成 16 年) からは大井ダ 1,800m で実施

※記録は令和 2 年 1 月 8 日時点

■ 1 番人気に推された馬は堅実

単勝 1 番人気馬は 8 勝、2 着 7 回、3 着 4 回で、3 着内率が 86.4%、単勝 2 番人気馬は 8 勝、2 着 3 回、3 着 1 回で、3 着内率が 54.5%、単勝 3 番人気馬は 2 勝、2 着 2 回、3 着 4 回で、3 着内率が 36.4%となっている。基本的には単勝 1 番人気馬が強いレースと言えそうだ。

■ 半数近い 10 回で 3 番人気以内の馬がワンツー

過去 22 回のうち 18 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 10 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 1 回ある。

■ 22 回目にして 7 歳以上馬が“初勝利”

馬齢別の勝利数を見ると、4 歳が 8 勝、5 歳が 8 勝、6 歳が 5 勝、7 歳が 1 勝となっている。7 歳以上で優勝を果たしたのは、昨年の第 22 回 (平成 31 年) を制したビスカリア (7 歳) が初めてだ。

■ レマーズガールとメーディアが“連覇”を達成

TCK 女王盃において 2 回以上の優勝経験があるのは、第 7 回 (平成 16 年) と第 8 回 (平成 17 年) を制したレマーズガール、第 16 回 (平成 25 年) と第 17 回 (平成 26 年) を制したメーディアの 2 頭で、いずれも 2 年連続の優勝となっている。

■外国産馬は5勝

外国産馬は第5回（平成14年）のレディバラード、第7回（平成16年）ならびに第8回（平成17年）のレマーズガール、第9回（平成18年）のクラブユアハート、第14回（平成23年）のラヴェリータと、4頭が延べ5勝している。

■優勝馬ならびに連対馬の7割以上はJRA所属馬

所属別成績を見ると、地方所属馬は6勝、2着7回、3着11回、JRA所属馬は16勝、2着15回、3着11回となっている。ちなみに、優勝を果たした地方所属馬は第15回（平成24年）のハルサンサンが最後だ。

■騎手別の歴代最多勝記録は「2」

騎手別の勝利数を見ると、2勝の今野忠成騎手、武豊騎手、戸崎圭太騎手、濱中俊騎手がトップタイとなっている。

■調教師別の歴代最多勝記録も「2」

調教師別の勝利数を見ると、2勝の笹田和秀調教師、山内研二調教師、湯浅三郎調教師がトップタイとなっている。

■4枠と15番は未勝利

枠番別勝利数を見ると、7枠（7勝）が単独トップ。5枠と6枠（各4勝）が2位タイ、2枠（3勝）が単独4位となっている。なお、未勝利の枠番は4枠だけだ。また、馬番別勝利数を見ると、8番（3勝）が単独トップ。2番、7番、10番、12番、14番（各2勝）が2位タイとなっている。ちなみに、未勝利の馬番は15番だけである。

<伊吹雅也>